



「傾聴」 「夢中」 「探究」

～子どもたちの未来のために、「聴き合い」「学び合い」「伝え合う」力を育む～

「ええ……」 「なんで？もう終わりなん？」 「もうちょっとやりたい！」
授業時間の終わりを告げるチャイムが鳴り、「もう終わってしまいました」という担任の声に対し、多くの子どもたちが口をとがらせて声を上げます。それどころか何人かはまだ近くの子どもと考えを出し合ったり、手元のブロックを操作し続けたりしています。相手の声に耳を傾けるその姿は、まさに「傾聴」しあう姿であり、学び合うことに「夢中」になっている姿でした。10月末午後の5時間目、1年生の算数の授業が終わったときの一コマでした。

そして授業が終わっても、まだ考え続けたいという思いを全身で表し、「続きは明日ね」という担任の言葉に「やったあ」と声を上げる子どもたちの姿は、「探究」に向かう姿そのものでした。

課題は下の通りです（「個」などの漢字の表記がいかにかに日本語の理解を助けるかも実感します）。

さとこさんは、チョコレートを 7こもっています。 （聡子さんは、チョコレートを7個持っています）
さとこさんは、ゆかさんより 5こすくないです。
さとこさんとゆかさんは、おかあさんに 2こずつチョコレートをあげました。
さとこさんとゆかさんとおかあさんのチョコレートは、あわせてなんこですか。

大人でも一瞬立ち止まって考えてしまう問題です。この問題では、まず7と5というこの二つの数の関係を考え、足し算か引き算かを決定します（演算の決定：7+5）。その後、その12と7と2との関係を考え、理由を言葉にしながらかそれぞれの演算を決めていくことで、「数学的に考える力」の育成をねらっています（正解を求める式は下のとおりです）。

$$7+5=12 \quad , \quad 7-2=5 \quad , \quad 12-2=10 \quad , \quad 2+2=4 \quad , \quad 5+10+4=19$$

（別解） $7+5=12 \quad 7+12=19$

この難解な問題に、1年生の子どもたちは悩み抜きながら45分間挑み続けました。とりわけ「さとこさんは、ゆかさんより5こすくないです」の「少ない」に悩むことになりました。「『少ない』んだから引き算。7-5だ。」という考えに、「いや足し算だよ。7+5で式は合っている。」という考え（正解）を、日本語の文脈を踏まえながら「なぜ合っているのか」という理由を他者（友だち）に伝えることは、この時期の1年生にとってまことに困難なことでした。しかし困難であるからこそ、「傾聴」に支えられた先の「夢中」と「探究」は生まれました。

本校では、子どもたちが、一人残らず、より高い課題に、夢中になって学び合う授業をめざしています。そして、その授業の中でこそ子どもたち同士が自他を認め合い、温かくつながり合うことをめざしています。それこそが標記の本校のめざす児童像「傾聴」「夢中」「探究」につながり、予見困難な未来に生きる子どもたちにとって必須な力である「思考力」や「応用力」「創造力」、そして深い「コミュニケーション能力」をつけることになると確信しています。

いよいよ師走、12月も末を迎えました。一年間本当にありがとうございました。おだやかな年の瀬と、すこやかな新年をお迎えになられますよう心からお祈り申し上げます。 校長 小松 茂文